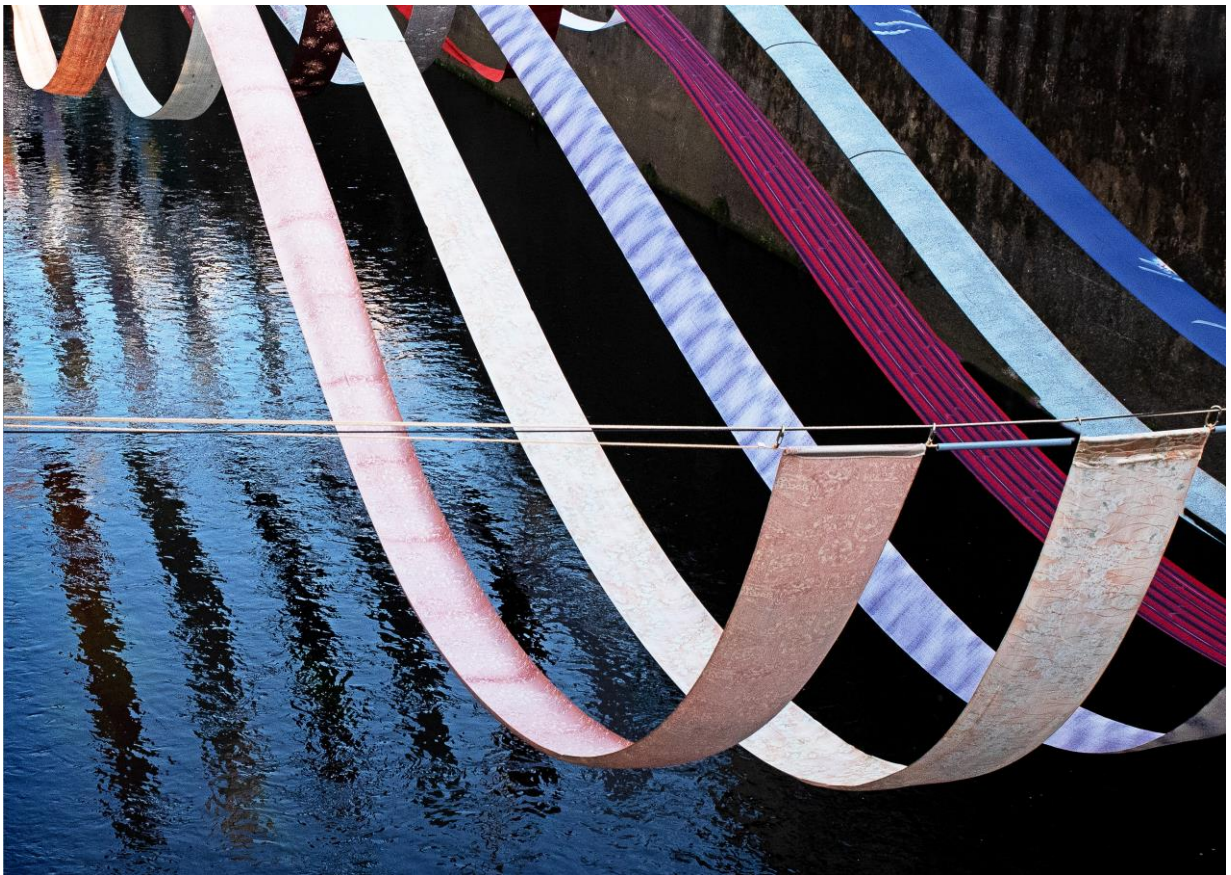


多賀工業会 東京支部会報

2020年5月第23号



< 染の小道「川のギャラリー」 >

茨城大学工学部同窓会・多賀工業会東京支部

挨拶

支部長 小林 一（昭38学機）



多賀工業会東京支部の皆様には、益々のご健勝の事とお慶び申し上げます。日頃から支部の運営にご理解並びにご支援をいただき、心からお礼申し上げます。

当支部の大きな課題である支部財政の改善について、お話をさせていただきます、

2018年から取り組みました支出の削減（諸経費・同窓の集いの運営費・支部会報の発行及び発送費等）はほぼ予定通りに推移して、2018年は約25万円の黒字・2019年は約9万円の黒字でした。

2019年についてももう少し説明しますと、収入の方が16万円の減（年会費分で8万円減・本部からの援助金6万円減がメインです）でした。年会費の減少についての背景を説明しますと、会員の高齢化に伴いS38年以前の卒業者では納入者が20名の減となりました。一方若い人の会員増にも取り組み、S45年卒以降では5名の増となりわずかですが成果が生まれたと判断しております。

2020年も支出の削減並びに、収入の増の為に新しい会員増への取り組みを継続しております。会員を増やす特効薬はないと思います。会員の皆様にご自分の周りを見渡していただき、仲間に入っていただけるよう声をかけていただく事が成果につながると思います。

話題を変えまして、東京支部は昭和56年（1981年）6月27日に設立されました。来年（2021年）で創立40周年を迎えることとなります。長きにわたり支部活動を継続・推進していただいた多くの諸先輩の方々のご尽力に、感謝申し上げます。時代が変わり、東京支部を取りまく環境が変わっても、私達は茨城大学工学部卒と言う共通の認識のもとに、多賀工業会東京支部の継続・発展のために力を合わせて、時代に合った活動を進めてゆくことが求められておると思います。

もう一つ、工学部の同窓会は本部が日立にあり、全国に14の支部があります。2年毎に全体の総会が開催されますが、来年（2021年）は東京支部の担当となります。丁度、東京支部の創立40周年と重なります。全体の総会には、工学部の関係者・本部並びに他支部の皆様もお出でになります。したがって、多くの方との旧交を楽しめる場を企画したいと考えております。

最後に、支部会員の皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。

表紙の写真：〈染の小道「川のギャラリー」〉

撮影地：新宿・中井・妙正寺川（2020年2月）

江戸文化が醸成した染色の技術、それを受け継いできた染工場の職人たち、川のあちこちで染め物を水洗いする様子は、昭和30年代まで落合・中井の日常風景の一部でした。

「川のギャラリー」では、色とりどりの反物を川面にかけ渡すことで、当時の街の記憶を現代によみがえらせています。友禪染の優美さに魅かれました

小林 渡（昭38学電）

2020年度(第40回) 多賀工業会東京支部「同窓の集い」は中止

新型コロナウイルス感染を避ける為、本年後半への延期とせず
来年(2021年)6月12日(土)開催予定

2020年度 東京支部総会は、
集合しての総会は中止とし、代わって 書面による表決といたします。
書面議決は同封葉書にて回答して下さい。
別紙「多賀工業会東京支部(書面)総会議案」をご参照ください。

2020年 第23号 目次

挨拶	-----	小林 一 -----	1
報告	2020年度(第40回)同窓の集い開催のご案内 -----	事務局 -----	2
	第23号目次 -----	事務局 -----	2
	2019年度(第39回)同窓の集い報告 -----	黒澤 郁雄 -----	3
	2019年度(第39回)同窓の集い写真集 -----	事務局 -----	4
	2019年度(第39回)同窓の集い出席者名簿 -----	飯塚 英一 -----	5
	2019年度東京支部会計報告 -----	佐藤 将彦 -----	6
	2020年度東京支部会計予算(案) -----	佐藤 将彦 -----	6
	茨城大学70周年 -----	小林 一 -----	7
随筆	続シルクロードの旅“ウズバクスタン” -----	坪 弘 -----	8
	お茶のルーツを訪ねて -----	磯部 亮 -----	9
	1966年茨大工化卒クラスについての雑感 -----	橋川 隆夫 -----	10
	太陽光発電ビジネスの変遷 -----	岸添 義彦 -----	11
	風水害を実体験して思う事 -----	丸島 國義 -----	12
支部めぐり	仙台支部の紹介 -----	中畑 直人 -----	13
同好会活動	囲碁部 -----	田中栄太郎 -----	14
	ゴルフ部 -----	佐藤 将彦 -----	15
	写真部 -----	小林 渡 -----	16
	山遊会 -----	青野 潔 -----	16
	2019年度同窓の集い作品展出展写真から抜粋 -----	写真部 -----	17~18
	女子会 -----	鈴木 葉子 -----	19
	テニス部 -----	山本 蕃 -----	20
お知らせ	ホームページ編集室より・編集後記 -----	ホームページ・会報編集室 -----	21
	2019年度会費納入者・寄付者名簿 -----	飯塚 英一 -----	22
協賛広告	ジュン・ホーム、いすゞ電機工業所、大協印刷 -----		裏表紙

2019年度(第39回) 「同窓の集い」報告

黒澤 郁雄(昭45学精)

東京支部『同窓の集い』を7月6日(土)にアルカディア市ヶ谷にて開催致しました。杉田龍二多賀工業会会長はじめ、各支部(千葉県、埼玉、水戸勝田、静岡、日立総合)代表の皆様をお迎えし、出席者は六十数名を数えました。今回の運営は事務局及び有志が務め運営の効率化を図りました。当日は梅雨空であったにも関わらず御出席頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

◇第一部：2019年度(第39回)東京支部総会 (12:30~13:00、4F 鳳凰の間)

司会は鈴木葉子年度幹事(昭62学化)が司会を担当しました。始めに、亡くなられた会員に黙祷を捧げました。次に、小林一(昭38学機)支部長から挨拶と支部活動についての報告があり、続いて御来賓を代表して杉田龍二(昭49学子)多賀工業会会長に御挨拶を戴きました。その後、総会の議事に移りました。



<司会鈴木幹事> <小林支部長挨拶> <杉田会長御挨拶>

議事

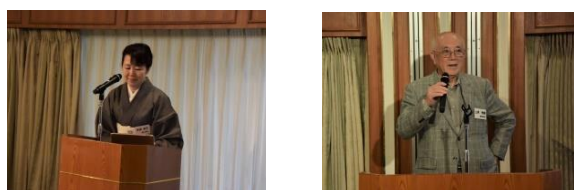
会計報告(29年度決算、30年度予算)

佐藤 将彦(昭43学子) 会計幹事
会計監査報告

田中栄太郎(昭40学化) 会計監査
各担当者から詳しい説明があり、その後質疑応答を経て、原案は全て承認されました。

◇第二部：懇親会(13:10~15:00、4F 鳳凰の間)

ここからは太田悦子年度幹事(昭60学電)が司会を担当しました。



<司会太田幹事> <上月顧問の歓迎挨拶>

懇親会は校歌斉唱に始まり、上月秀俊(昭36学機)顧問の歓迎挨拶、顧問の音頭で乾杯しました。

初参加者7名を紹介し、引き続き一人ずつスピーチをお願いしました。出席者は8テーブルに8~9人ずつ別れて大いに飲み、かつ、食べながら歓談しました。その後頃合いを見て、森田徹郎(昭42学電)幹事長のフルート演奏、鶴田昭則氏のテノール歌唱を披露して戴きました。最後は、駒場方耀(昭38学機)顧問の中締めで閉会となりました。



<御来賓の皆様>



<初参加者の自己紹介>



<森田幹事長のフルート演奏>

◇写真展：(12:30~15:00、4F 鳳凰の間廊下)

写真部メンバーの力作が多数展示されました。中には著名な美術展で賞を取った作品もあり、見学者の興味を大いにそそるものばかりでした。



2019 年度(第 39 回)同窓の集い写真集



<御来賓の皆さん>



<昭和 30 年代前半卒の皆さん>



<昭和 30 年代後半卒の皆さん>



<昭和 30 年代後半卒の皆さん>



<昭和 40 年代前半卒の皆さん>



<昭和 40 年代後半卒の皆さん>



<昭和 40 年・50 年代卒の皆さん>



<女性を囲む若手の皆さん>

2019 元年度多賀工業会東京支部「同窓の集い」出席者名簿

〈来賓〉6名 (敬称略)

杉田 龍二	多賀工業会	会長	(昭 49 学子)	本澤 壽郎	水戸勝田支部	幹事長	(昭 49 院子)
高橋 邦彦	千葉県支部	副支部長	(昭 41 学機)	新江 眞	静岡支部	支部長	(昭 44 学機)
		兼幹事長		武士 洋一	日立綜合支部	支部長	(昭 40 学金)
八代 利之	埼玉支部	幹事長	(昭 43 学金)				

〈会員〉59名 (敬称略)

山崎 慎一郎	(昭 31 学原)	大塚 進	(昭 38 学化)	藤枝 伸一	(昭 45 学子)
矢野 睦男	(昭 32 学原)	小田倉 勝夫	(昭 38 学化)	黒澤 郁雄	(昭 45 学精)
上月 秀俊	(昭 36 学機)	白石 道彦	(昭 38 学化)	飯塚 英一	(昭 46 学電)
森永 隆宏	(昭 36 学機)	高木 二郎	(昭 38 学化)	加藤 昌男	(昭 46 学電)
小宅 仁	(昭 36 学電)	矢部 功一	(昭 38 学化)	狩野 守	(昭 46 学電)
上田 正雄	(昭 37 学電)	矢嶋 國男	(昭 38 学精)	金子 芳久	(昭 48 学機)
河上 弘一	(昭 38 学機)	田中 栄太郎	(昭 40 学化)	村上 宗久	(昭 48 学機)
小林 一	(昭 38 学機)	大泉 雅靖	(昭 40 学精)	岸添 義彦	(昭 50 学精)
駒場 方耀	(昭 38 学機)	寺 紘一	(昭 40 学精)	駒坂 俊樹	(昭 50 院化)
桜井 衛	(昭 38 学機)	高橋 伸二	(昭 41 学機)	小澤 喜宏	(昭 53 学子)
丹下 宏	(昭 38 学機)	青野 潔	(昭 41 学化)	加藤 邦治	(昭 53 学子)
徳江 景英	(昭 38 学機)	小沼 敦志	(昭 41 学化)	川村 澄	(昭 54 院子)
中村 好秀	(昭 38 学機)	橋川 隆夫	(昭 41 学化)	松本 勝巳	(昭 57 学機)
兼子 八郎	(昭 38 学電)	森田 徹郎	(昭 42 学電)	若松 洋治	(昭 57 学金)
後藤 紀夫	(昭 38 学電)	山本 蕃	(昭 42 学精)	太田 悦子	(昭 60 学電)
小林 渡	(昭 38 学電)	鶴田 昭則	(昭 42 学教音)	板垣 整子	(昭 61 院電)
寺内 賢一	(昭 38 学電)	佐藤 将彦	(昭 43 学子)	鈴木 葉子	(昭 62 学化)
橋本 政巳	(昭 38 学電)	角田 勇	(昭 43 学子)	大本 哲子	(昭 63 学電)
綿引 貞男	(昭 38 学電)	小滝 麟太郎	(昭 45 学電)	張 立業	(平 24 院情)
海老原 雄二	(昭 38 学金)	吉田 通廣	(昭 45 学電)		

ご出席いただき

どうもありがとう

ございました!



2019年度 多賀工業会東京支部会計報告

収入の部 2019年1月1日～2019年12月31日 (単位：円)

費目	予算	実績	予算差	摘要
年会費	350,000	320,000	-30,000	160口(122名)
本部援助金	183,700	120,200	-63,500	大幅減額(35%)
同窓の集い会費	520,000	531,652	11,652	参加者63名、フォーラム参加費(12,5000円)含む
広告料	45,000	45,000	0	3件
寄付・利息	50,000	50,550	550	
収入の部 計	1,148,700	1,067,402	-81,298	
繰越金	777,540	777,540	-	
合計	1,926,240	1,844,942	-81,298	

支出の部

同窓の集い会費	433,000	463,186	30,186	会員増対策(本部賛助金納入者勧誘等)による増
総会場・懇親会費	400,000	397,324		参加者65名
その他諸費用	33,000	65,862		
会報費	263,100	273,879	10,779	前年度同様(A4版24頁全カラー;450部 作成)
印刷会社発注費	251,100	251,040		印刷費(150,000円)、発送費その他(101,040円)
編集雑費	12,000	22,839		
会議費	50,000	44,587	-5,413	前年度同様(幹事会年2回、懇親会援助費減など)
交通費	50,000	46,036	-3,964	前年度同様(幹事会年2回)
本部・支部総会参加交通費	15,000	14,388		5支部総会参加
一般交通費	35,000	32,648		
交流費	160,000	135,007	-24,993	前年度同様(同好会援助費減等)
本部・支部総会参加会費	50,000	46,000		5支部総会参加
同好会援助	76,000	72,000		支援費一律前年度比半減、支部間交流費は都度
雑費	34,000	17,007		
振込み費	10,000	14,136	4,136	払込料値上り(4月)による増
支出の部 計	966,100	976,831	10,731	
繰越金	960,140	868,111	-92,029	三菱UFJ ¥146,600 ゆうちょ銀 ¥514,042 現金 ¥207,469
合計	1,926,240	1,844,942	-81,298	

以上の通り、報告致します。

2020年 1月24日

会計幹事

佐藤 将彦



監査の結果、上記に相違ないことを認めます。

2020年 2月7日

会計監事

高木 二郎



2020年 2月7日

会計監事

田中栄太郎



2020年度 多賀工業会東京支部 会計予算(案)

収入の部 2020年1月1日～2020年12月31日 (単位：円)

費目	予算	前年度実績差	摘要
年会費	320,000	0	160口(前年度実績並み)
本部援助金	120,200	0	前年度同額
同窓の集い会費	520,000	-11,652	65名(前年度実績並み)
広告料	45,000	0	3件
寄付・利息	50,000	-550	前年度実績並み
収入の部 計	1,055,200	-12,202	
繰越金	868,111	90,571	
合計	1,923,311	78,369	

支出の部

同窓の集い会費	460,000	-3,186	65名(前年度実績並み)
総会場・懇親会費	400,000	2,676	
その他諸費用	60,000	-5,862	会員増対策継続
会報費	268,000	-5,879	前年度踏襲(A4版24頁全カラー;450部 作成)
印刷会社発注費	250,000	-1,040	印刷費(153,000円)、発送費その他(97,000円)
編集雑費	18,000	-4,839	
会議費	50,000	5,413	前年実績並み
交通費	50,000	3,964	前年実績並み
本部・支部総会参加交通費	10,000	-4,388	
一般交通費	40,000	7,352	
交流費	150,000	14,993	前年度予算並み
本部・支部総会参加会費	60,000	14,000	
同好会援助	72,000	0	前年度実績
雑費	18,000	993	
振込み費	15,000	864	前年度実績並み
支出の部 計	993,000	16,169	前年度実績並み
繰越金	930,311	62,200	
合計	1,923,311	78,369	

[茨城大学創立70周年]

支部長 小林 一（昭38学機）

我々の母校である茨城大学は、昭和24年（1949年）5月31日に旧制水戸高等学校・茨城師範学校・多賀工業専門学校が統合され、新制大学として発足しました。さらに、昭和27年には茨城県立農科大学が農学部として合流し、現在の骨格ができあがりました。そして令和元年5月31日に創立70周年を迎え、記念式典・記念事業・記念講演が行われました。

1. 創立70周年記念式典



令和元年5月25日（土）、茨城大学講堂に文科省副大臣・茨城県知事・筑波大学長・茨城大学同窓会連合会会長・その他の来賓の方々をお迎えして記念式典が開催され、三村信男学長の式辞・来賓の方々の祝辞が述べられました。

2. 記念事業（3キャンパス施設の整備）

(1). 水戸キャンパス

福利会館（大学生協）の食堂スペースを大幅に拡充し、学生と地域の方々の憩いの場としての機能強化を図ります。



(2). 日立キャンパス

正門付近を開放的な景観に整備するとともに、キャンパス内にコンビニエンスストアをオープンさせて学生や地域の方々の利便性向上を図ります。



(3). 阿見キャンパス

地域の食の未来を支える新たな研究・教育施設であるフードイノベーション棟を設けました。今後、国際的な安全基準に準拠した食品加工実習のための施設やイノベーションラボとしての活用に向けて順次整備を進めていきます。



3. 記念講演会

令和元年10月26日（土）に東京都千代田区の一橋講堂にて、茨城大学理学部岡田誠教授が『チバニアンと地質時代』と題して記念講演を行ないました。会場には現役学生・同窓生・その他一般の方々も大勢集まり、熱心に聞き入りました。

講師を務めた岡田誠教授は、研究チームの代表として活躍されました。そして皆さん御存じのように、令和2年1月17日に国際地質科学連合の会議で『約77万4千～12万9千年前の地質時代をチバニアン（千葉の時代）と呼ぶ』ことが正式に決定しました。地球の時代区分の国際標準地として、日本の地名が選ばれたのは初めてのことです。今後教科書等に取り上げられることが想定され、現地は観光や教育の聖地として重要な役割を果たすことになるでしょう。

以上

続 シルクロードの旅 ”ウズベキスタン”

坏 弘(昭37学機)



3年ほど前中国西安から敦煌を経てトルハン、ウルムチまでのシルクロードを旅したが、今回は更に西方へ1500km程入ったウズベキスタンの地を旅した。工業会諸兄にはあまりなじみのない国だろうと思うので、この国について紹介してみたい。

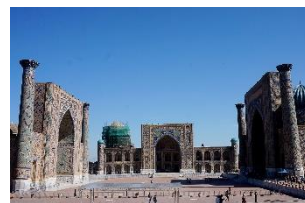
成田を発ち5時間余り後、中国領天山山脈沿いにタクラマカン砂漠の上空をさらに4時間ほど飛び、山脈がキルギスやタジキスタンで平地に近くなりウズベキスタンとなる。国の西部カラカルパクスタン自治共和国に存するアラル海に流れ込むアムダリアとシルダリアの2河川が、国を囲むように流れている。アラル海はかつて世界第4位の塩湖であったが、旧ソ連時代の農業ソホーズ化政策の灌漑事業で流れ込む水量が減り、今は往時の10分の1の大きさに干上がったと言われているが、30m程水位が下がり干上がった地に古代人の住居跡が出てきたとかで、長い周期で干満を繰り返した元に戻る時が来るように思われる。

ウズベキスタン共和国は1991年のソ連邦の崩壊でロシアから独立した新興国、中央アジア6ヶ国中面積は3番目。カザフスタンの半分ではあるが、人口は3200万人と最多。首都は帝政ロシア時代から総督府がおかれたタシケントで人口は300万人、中央アジアで唯一地下鉄が走る都市である。国内にはシルクロードの交易要衝都市であったタシケント・サマルカンド・ブハラ・ヒヴァ・シャフリサブスなどがあり、路はこれらの都市を經由してテヘラン・バグダットを経て一方はアレクサンドリア、他方はトルコアナトリアを経てローマへ、その全長12000kmが続いている。シルクロードと言っても、ラクダのキャラバンが踏み固めた程度のそまつな道であったように思える。ブハラからシャフリサブス経由サマルカンドまでバスで移動したが、今でも未舗装のでこぼこ道で居眠りすると放り出されんばかりの揺れで酔った人も出る始末。400kmに満たない道に、一日を費やした。余分な話だが、1976年に会社からソ連邦タタール自治共和国へ輸出したトラック製作用プレスラインの据え付けSVでカマトラック工場へ1年間ほど出張したが、この道すがら多くの当時のままのカマトラックが老骨に鞭打つかのように走っているのが車窓から見られた。つい、己の歳も考えさせられる。また、サマルカンドからタシケントまでは、スペイン製の高速鉄道(150~160km/hrくらいで日に2本程度が運行されている)に乗った。レ

ールの継ぎ目音が気になる程度。

数分おきに発着する新幹線でない限り複雑なシステムは不要で、日に数本と言った後進国向け高速鉄道を輸出するには、日本も考慮して取り組んだ方が良さのかもしれない。

尚、シャフリサブスには7世紀玄奘三蔵がインドへの途で立ち寄った記録が残っていると。かつて、シルクロードは金の路・銀の路・紙の路などとも部分的に呼ばれたようだが、物量的に大きな交易が絹であった事から、17世紀にドイツ人によってシルクロードと呼ばれ始めたようだ。ウズベキスタンは鉱物資源に恵まれ、天然ガス・石油(未開発)・金・銀・銅・鉛・ウラン等を産し、天然ガスはロシア経由ヨーロッパと直接中国へ輸出している。この地は紀元前4世紀にはアレキサンダーに蹂躪され、国の西方には日干し煉瓦で築かれ破壊された城塞の跡のような物も残っている。また7世紀にはアラブ人が侵入してきた事でそれまでの商売に長けたソクド人の世界最古と言われるゾロアスター教は急速に衰微したが、ほとんど崩れた状態のその遺構もまた視られる。13世紀にはジンギスハーンに街は焼き払われ、これを復興させたのは14世紀にチンギスハーンの直系を妻としたティムールで、彼は15世紀にかけ西はトルコ・東はインドガンジス河までの帝国を築き、彼の直系はインドの地でムガル朝を興しイスラムの廟堂タージマハールを建立している。現在ウズベキスタンのサマルカンド・タシケント・シャフリサブスなどに存するモスク(イスラムの礼拝堂)、ミナレット(礼拝時刻告げる塔)、メドセレ(神学校)など



<モスク>



<ミナレット>

は、このティムール帝国時代に建立されたものが多い。

青の都とも言われるサマルカンドは紀元前8世紀頃が起源で、その青タイルはペルシャの顔料と中国の陶磁器技術が合わさったものであり、シルクロードの交易の歴史変遷を感じさせている。サマルカンドはティムール帝国の首都で、当時世界の中心的存在であったようだ。一方、首都のタシケントは紀元前2世紀頃の起源で、当時はサマルカンドには及ばなかったように思える。しかし、帝政ロシアがこの地方の統治のため総督府を置いてから新市街が造られ、今に至ったようだ。

タシケントには第二次大戦時ソビエトに抑留され、この地で死亡した日本人墓地がある。ウズベキスタ

ン内に抑留者は 25000 人程いたようで、その内 800 人がこの地で眠る事になったようである。彼等は強制労働に服し、1960 年代にこの地を襲った大地震にも耐えたオペラ・バレエ劇場を残し、日本人の評価を高めている。死亡者がシベリア抑留者などより割合として少ないのは、比較的気候も冬には-10 度 C 位にはなるが温暖な事とウズベク人の寛大さが在ったように思える。墓には 20 年前ぐらいに植えられた桜の木が葉を拡げ、専属の墓守がいた。限られた日程の中でこの国を視て回るのには交通事情などから夜遅くなったり早起きしたりすることもあったが、初めての中央アジアのイスラム国を視られたように思う。途中タシケントで、ドイツのハンブルグからバスで 56 日間をかけシルクロードを巡り上海まで行くドイツ人一行に会った。一人 2 万ユーロで最年長は 85 歳、パオに泊まる事もあるとの事だった。好奇心を失わず、気持ち位は何時までも若々しくありたいと思った。

2500km 近い天山山脈やタクラマカン砂漠を飛行機の窓から眺めると、これらが全て中国領で開発が進めばレアアースも含めふんだんな鉱物資源が得られるように思える。ウズベキスタンからは天然ガスをパイプラインで買い付け、多くの企業も進出しているようだし、一帯一路の行く末を考えさせられる旅でもあった。

著者プロフィール

- ・1962 年：石川島播磨重工業(現 IHI)入社
- ・1999 年：アメリカ伊藤忠商事との JV へ出向
- ・2009 年：IHI 自主退社

お茶のルーツを訪ねて

磯部 亮(昭 38 学精)



少し古い話ですが、中国にお茶のルーツを訪ねて団体旅行に行った時のことを書いてみたいと思います。1995 年 5 月 21 日～5 月 27 日までの、6 泊 7 日の旅でした。

1 日目は上海まで飛行機で行きその日は市内の「豫園」等を見物し、京劇を説明つきで見せてもらい十分堪能しました。

2 日目はまた飛行機で寧波まで行き、わが国にお茶をもたらしてくれた栄西禅師(注 1)が修業していた「天童寺」を訪れ、私の会の虚白宗匠が献茶を行い全員が参禅しました。



<天童寺>

(注 1) 栄西禅師 1141 生～1215 没・2 度の渡航後「天童寺」から明州の慶元府へ、そして肥前の平戸に着いた栄西は宗より持ち帰った茶の実

を肥前と筑前の国境の背振山の石上にまき、日本で初めての茶を栽培し「喫茶養生記」2 巻を表した人物です。その日は寧波から杭州まで列車で行くことになっており、途中の紹興駅でしばらく停車していましたがホームに降り紹興酒(4 合瓶)を買ったところ、当時日本で 1500 円位していたものが 70 円で買え、あまりの安さにびっくりしたものです。

3 日目は西湖の近くの「南宗官窯博物館」で青磁陰刻の指導をしていただき、水指になる器を 2 個製作し、帰国時に無事持ち帰ることができました。その後やはり近くの「茶葉研究所」で龍井<ロンジン>茶(注 2)の入れ方指導して頂き、その代わりにこちらの抹茶の点前を披露し、お互いに交流を深めました。

(注 2) 西湖の西に位置する龍井村で作られていたからその名をつけられた。中国で唯一生産される緑茶で、日本の煎茶に近い味である。その他の地方は発酵して作るウーロン茶である。

4 日目は西湖を船で遊覧し、日本に初めて饅頭をもたらした林浄因(注 3)の碑を訪れ、感を新たにしました。

(注 3) 林浄因は中国で肉を詰めて食べる饅頭にヒントを得て、肉食が許されない僧侶のために小豆を煮詰め、甘葛の甘みと塩味を加えて餡を作り、これを皮に包んで蒸し上げました。これが当時の寺院に集う上流階級に大評判となり、現在の塩瀬饅頭に引き継がれ、塩瀬総本家が毎年碑前にて行う饅頭祭にて、紅白饅頭 2 千個配っているそうです<塩瀬総本家についての資料から抜粋>。



<林浄因の碑>

5 日目はバスにて陸羽(注 4)が建てたという「三癸亭」を見学し、その後遊覧船にて湖州から無錫まで太湖を縦断した。太湖は尾形大作の「無錫旅情」の歌のように風光明媚な湖であるが、海と見間違ふほど広くかつ波がほとんどないので何か不思議な感じがしました。

(注 4) 陸羽は 733 年生～804 年没・中唐期の詩人で、茶に関する最古で最高の古典「茶経」3 巻の著者である。茶経 3 巻は 758 年～761 年までの間に完成されたと云う。茶の文化を総合的に深く考察した力作で、後世の茶書の鼻祖になった。

6 日目は蘇州の漢詩で有名な「寒山寺」、「留園」等を見学し、その後上海に戻り次の日帰国しました。

著者プロフィール

- ・1963 年：松下通信工業(株)入社
 - ・2002 年：パナソニック FA システム(株)転籍
 - ・2003 年：パナソニック FA システム(株)退社
- ◇茶道表千家講師の資格保有

1966年茨大工化卒クラス についての雑感

橋川 隆夫(昭41学化)

1962年工業化学科入学生は、全員1966年3月に無事卒業した。とりわけ優秀な人はおらず、ドンダリの背比べで、皆仲良く楽しい学生時代を送ったと思う。

卒業の頃は不景気になり始め、中小企業に入社した人もいたが、彼らの方が頑張って、大きな功績を挙げ社長になり、一方では自ら起業した人もいた。その他、一流企業で出世した人も多いが、彼らは、学生時の成績には関係なく、何事にも挫けない気力と、人に配慮し、かつ社交性に優れていたように思える。

その一人に昨年亡くなった小谷野英勝氏がいる。彼は鍍金工場に就職したが、入社早々から才能を発揮し、本来の鍍金の研究に加えて社屋の建て替えを行い、その功績により、社長からヨーロッパ旅行をプレゼントされた。彼はその後社長を任され、鍍金業界で名をあげた。

私も就職には苦勞した。企業に入社することは叶わず、東京工大付属工業高校(現、科学技術高校)に勤める事になった。しかし、それが幸いし、生徒達や仲間の教職員達と楽しく、充実した教師生活を送ることが出来た。国立大学付属学校には自由があり、教育は教職員自らが、生徒の将来のため何が出来るか、どうしたらよいかを探究しながら行うものであるという雰囲気が強かった。そのため、時には管理職と衝突したが、今では懐かしい思い出となった。

最初のクラス会は、卒業後2年目の2月に新宿のビアホールで行った。この時は、全て白山邦彦氏を取りはからってくれた。彼は、誰にでも優しくクラスの事を大切に思ってくれた人で、卒業アルバムも彼と竹上信武氏で作ってくれた。彼には本当に感謝している。その後、彼は体調を崩し還暦を待たずに亡くなった。私は彼の後を引き継いでクラスの連絡に当たり、現在までにクラス会を13回行った。

前回のクラス会は2016年9月末に筑波山の江戸屋で行い、田中先生も含め16人が集まった。互いに健康を祝し、夜遅くまで会食し近況を話し合った。翌日は、筑波山に登った。ロープウェイで上がり、大きな石を踏み越えて女体山山頂に到着した。青空は無限に広がり、山頂からは広大な関東平野が一望で

き、すばらしい景観に感動した。男体山からは遠回りして散策を楽しみ、ケーブルで下山した。皆、全身に汗をかき、宿のサービスで、風呂に入り再会を約して散会した。



<筑波山の江戸屋にて>



<筑波山山頂にて>

今年9月末に14度目のクラス会を計画しているが、新型コロナウイルスの影響でどうなるか不安である。多賀工業会には、いわきの弥勒友道氏、日立の小沼淳志氏、東京の青野潔氏が貢献していることもあり、将来、多賀工業会に合流する事をまじめに考えている。

著者プロフィール

- ・1966年：東京工業大学附属工業高校就職
- ・2005年：上記退職
- ◇趣味：囲碁、野菜づくり

太陽光発電ビジネスの変遷

岸添 義彦 (昭50学精)

1. はじめに



会社勤めの長い期間、私は太陽光発電というビジネスの世界で過ごした。どのようなビジネスにもライフサイクルというものがあり、企業は事業継続のために変化(イノベーション)が求められる。太陽光発電も時代変化の

見極めと柔軟な対応力が求められるビジネスであった。サラリーマン生活を卒業した今、太陽光発電ビジネスがどのように始まり、変遷していったかを振り返ってみた。

2. 新たなビジネスの立ち上げ

入社後、開発に関わる仕事をいくつか経験した頃、上司に呼び出され新たな事業を始めることを告げられた。「国は新エネルギー普及のための補助制度を始める準備をしている。この機会に当社も太陽光発電事業に参入することになった。」とのことである。

この日から私は太陽光発電ビジネスに関わることになる。オイルショック(1973年)の後、サンシャイン計画、ムーンライト計画など国の政策に対応して研究所では太陽電池の研究開発を進めていた。その成果を工場が引き継ぎ、事業化することになったのだ。工場の一角に事務所と実験スペースが与えられ、机や椅子、実験設備などを購入することから始めた。何もかも手探りの状況であったが新たなビジネスに取り組むということで希望に満ちたスタートだった(1995年)。

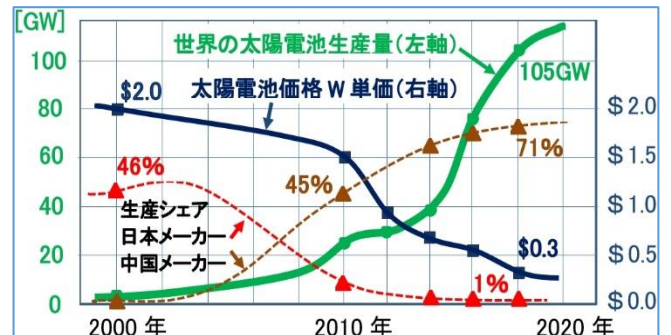
3. 太陽光発電ビジネスの創成～発展

いざ製品化に向けた開発を始めると次々と問題が発生した。一時はどうなることかと心配したが、何とか国の補助制度に間に合わせ製品化することが出来た(1998年)。この時期、太陽光発電(以後:太陽光)ビジネスは住宅用が中心で、国が設置費用の1/2~1/3の補助金を出していた。しかし一般的な住宅用システムの価格は高級車ほどもして、補助金をもらって設置しても得られる電力ではとても元が取れなかった。従って、当時の購入者は環境意識が高い一部の人に限られ、販売量は全く伸びなかった。太陽光ビジネスは赤字を垂れ流す状況が続き、経営サイドからの風当たりも厳しかった。事業担当者にとっては苦しい時代であった。

しかし、2003年頃から少し風向きが変わり始めた。ヨーロッパで太陽光発電システム普及のための補助制度が始まり、需要が伸び始めた。当時、太陽電池の量産技術を確認していたのは日本メーカーで、世界の太陽電池生産量の半分近くを日本のメーカー数社で占めていた。このため海外から多くの注文が入

り、太陽電池事業の採算が一気に改善した。事業化以降の累積損失が数年で一掃され、更に多くの利益を生み出した。新たな工場建設にも着手し、設備投資が加速した。

(2003年～:太陽光ビジネスの第一次発展期。)



<図1. 太陽電池の生産量と価格の推移>

4. ビジネス環境の変化

しかし、この頃から中国メーカーが太陽電池の製造に参入し始めた。日本の工場建設で技術を習得した装置メーカーが一斉に海外に製造設備を売り込んだため、中国で生産が立ち上がるのは早かった。2008年頃には生産量で日本を上回るようになり、やがて太陽電池価格の急激な下落が始まった(図1.参照)。このため日本メーカーは苦境に陥った。しかし、国内でも新たな補助制度(FIT制度:2012年)が始まり市場の拡大が続いたため、日本メーカーは太陽電池の製造を海外に移しコストダウンを図り事業を継続した。この頃から太陽光ビジネスは太陽電池の製造で利益を得る時代から、安価になった太陽電池を用い発電所を建設、システム化することによって利益を得るビジネスに変化していった。(2013年～:太陽光ビジネスの第二次発展期。)

5. まとめ

今また、市場に大きな変化が起きている。国の補助制度が縮小され太陽光発電所の建設では利益が得られなくなってきた。このため、太陽光ビジネスの重心は発電所の運営管理と、そこから生み出される電力の活用に移りつつある。今後の太陽光ビジネスのキーワードは「電力自由化」「地域新電力」「再エネの主力電源化」などであり、新たな発展の方向を模索している。

著者プロフィール

- ・1975年～2008年:三菱電機株式会社
- ・2008年～2018年:英弘精機株式会社

風水害を実体験して思う事

丸島 國義(昭 55 院電)



「ここは温暖で霜も降りない、夏は海風で涼しい、一帯の地盤は強固、海底には岩礁があり津波が弱まる」と古老の言、二軒先は終末ケア主体のクリニック、近所に複数の海底ケーブル中継基地、漁業無線局、元緑地震津波の推定高さも 1m 程度。これが 2013 年に南房総千倉町白子に終の家を買う判断材料でした。その秋の台風で 2 階の掃出し窓の雨戸が飛び一抹の不安を覚えました、19 年秋まで約 6 年間災害は無く多少西風が強いことを我慢すれば穏やかな土地柄でした。が、台風 15 号、19 号、豪雨で通説は一変、当時の状況や行動を披露します。

台風 15 号：山武市から 20 時頃帰宅、通常通り 1 週間分の食料を近くの店で購入、念の為保冷剤を大量に冷凍庫に入れいつもの台風と思い遅い晩酌、雨戸を締め就寝。2 時頃に不気味な振動と音で目が覚め暫くすると上記の雨戸が吹き飛びガラス一枚に、これを飛ばされないように 5 時まで押さえ続けました。朝近所の状況は一変、小屋が消え、屋根瓦が半分、壁に大穴や二階のみが浸水の家、瓦礫を被った車等悲惨な状況。停電ですがガラケーは通話可能、でも電池が心配なので使用は控え安否発信はせず。二日目に基地局バッテリー上りで携帯電話や行政無線放送も使用不能に、更に配水場が長期停電で貯水が枯渇し一部が断水へ。冷蔵庫は保冷材を一部冷蔵室に移し最小限の開閉に、米、野菜、素麺、塩、味噌、麵つゆストックも有り飢えの心配は無く、運よく断水も回避、プロパンガスも使用可能でした。ただ停電なので風呂のボイラーが不動で水シャワーで冷たい。災害支援の拠点回りは信号機の停止や動転した運転者を考慮し自転車にするも路上に散乱する釘を踏んでパンク、車がパンクするよりはましと。とにかく道路には雑多のものが散乱し走行しない方が良くかと。近隣の重要施設の関係で優先的に 4 日後には電力は回復、が近所では二階や天井の浸水で漏電ブレーカーが作動しこの意味や復帰法を知らずに混乱、助言を。ただ 15 日位は近所の店舗は停電と被災で休業、上記の食料で我慢。物資や職人不足で修理が進まない折知人大工が茨城から来てくれ屋根や雨戸の修復は 19 号襲来の 3 日前に終了、加えて雨戸の筋交い補強も。

台風 19 号：前日朝雨戸を補強して常陸大宮へ、翌夕刻 TV の道路情報を信じて那珂 IC に急ぐも閉鎖、仕方なく県道で水戸へ、6 号、16 号、410 号で千倉に向かうも風雨でコンビニ店さえ休業、房総の山間部は倒木や大量の折れ枝で道路は一面緑色、路肩が

不明なので中央を走行、倒木を排除しながら進むも千倉目前でついに電話線に絡まった倒木を排除できず進行不能、引き返し鴨川に出て南下、今度は白銀の世界(浪花)！空からも雪の如く降り注ぎ一瞬異次元の世界かと、周りは停電で真っ暗、信号も消え路肩も不明なのでまた中央走行で泡を掻き分けながらやっと深夜に千倉着。補強の効果か雨戸損壊は無きもインターネット用光ケーブルが壁際で切断、結果繋がる固定電話、TV、FM も不通で AM ラジオが主な情報源。光ケーブルの修理依頼は知人宅で固定電話を借り 3 時間を要し修理を依頼するも日程は不明と、幸い 3 日後に修理に。

集中豪雨：早朝から雨風が激しくなり目前の水田、畑、側溝、市道の順に水没、消えた側溝に落ちる車も。側溝の海への排水量を大幅に越える雨水は市道を海に向かって流れ出す始末、写真の状況は古老たちも経験は無いと嘖然。生家の茂原でも河川の水位上昇で河川近くでは 1.5m 以上の洪水で 1 F は水没の家が多数に。生家と畑は高台にあり無事でした。



<雨水が市道上を勢いよく流れていく>

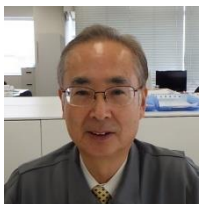
まとめ：この体験から思う事は原則的ですが、ガラス窓は飛来物で割れるので雨戸は必須かつ台風時は筋交い補強を、30 年以上もノーメンテの屋根の破損が多いのでメンテは定期的に、河川の近くには住まない。台風時は中央走行でノコギリ用意。保冷材と乾物ストックは有効、日頃からの近所付き合い、知人との交友が大切。自然を侮り闘うのではなく恐れ共存する姿勢が肝要かと！

著者プロフィール

- ・1980 年：第二精工舎入社
- ・1984 年：オリエンタルモーター入社
- ・1999 年：秋田大学博士課程修了
- ・自営業を経て現在、年金・内職生活

多賀工業会 仙台支部活動紹介

中畑 直人(昭 52 学電)



仙台支部 {支部長 金田万庫 (昭 44 学電)} は、全国 14 支部の中で、1986 (S61)年 6 月に第 10 番目の支部として発足しました。

仙台支部の母体は、東北電力株式会社の茨城大学工学部卒業生の集まりであった「黒潮会」から発足しております。会員数は約 61 名で、その会員は仙台市および東北各県、新潟県に在住の方々となっております。

年間の活動としては、総会、お花見会、ビアパーティー、ゴルフコンペ、などを実施しております。昨年の第 34 回総会は、2019(R1)年 7 月 27 日にホテルメルパルク仙台にて、杉田多賀工業会長にご出席を賜り、会員 19 名の参加のもと開催しました。

第 2 部の懇親会は、会員の皆さまの懐かしい学友と顔を合わせて酒を酌み交わしながら謳歌した青春時代、学生生活など思い出話に花を咲かせ、楽しみにしている行事です。これからも楽しく参加したい総会にしてみたいと考えております。

今年度も若手会員の増員に向けての活動や、ビアパーティー、ゴルフ、囲碁・麻雀大会、海釣りなどの行事、並びに隣接支部との交流並びにホームページ内容の充実を図っていくこととしております。

また、今年の 3 月からは、東日本大震災で一部区間が不通になっていた常磐線が全線開通となり、仙台から特急「ひたち」で日立まで行けるようになり、改めて母校を身近に感じます。

支部長(金田万庫)プロフィール

- ・ 1969(S44)年：電気工学科卒業
- ・ 1969(S44)年：東北電力(株)入社
- ・ 2012(H24)年：仙台支部長就任
～現在に至る



<2019 年 7 月 27 日：第 34 回仙台支部総会>

(前列中央が金田支部長)

囲碁部

部長 田中 栄太郎(昭 40 学化)

現在、会員の登録者は、昭和 31 年卒の先輩から 46 年卒の方々までの 22 名で、棋力は八段から 4 級までいろいろです。

大会は年に 4 回で、2 月・5 月・11 月の第 2 土曜日と 8 月の第 1 土曜日に神田駅近くの碁会所「新しい碁囲碁ジャパン神田」で行います。

本大会には東京都をはじめ埼玉県、千葉県および神奈川県各地から遠路はるばる参加される方々もおられます。

また埼玉支部囲碁部との交流もあり、囲碁を通じての親睦を深めています。

囲碁に関心のある方、卒業年代にかかわらず多数の参加者を歓迎します。

連絡窓口

部長：田中 栄太郎

TEL：0466-82-4988

西暦 2019 年度の大会入賞者（一部支部会報第 22 号と重複あり）は以下のとおりです。

大会	開催日	優勝	準優勝	三位	四位	五位	六位	参加者
77	2019 02-09	藤沼五段 (機 43)	上田四段 (電 37)	山田六段 (電 42)	酒井五段 (金 44)	田中四段 (化 40)	兼子二段 (電 38)	14 名
78	2019 05-11	藤沼五段 (機 43)	山下七段 (電 32)	酒井五段 (金 44)	上田四段 (電 37)	阿部四段 (子 44)	田中四段 (化 40)	12 名
79	2019 08-03	山田六段 (電 42)	門井四段 (化 44)	田中四段 (化 40)	酒井五段 (金 44)	粕谷三段 (電 42)	藤沼五段 (機 43)	13 名
80	2019 11-09	小室五段 (金 36)	酒井五段 (金 44)	安田四段 (子 46)	粕谷三段 (電 42)	田中四段 (化 40)	—	13 名



第 80 回囲碁大会参加者（場所：新しい碁囲碁ジャパン神田）

前列左から、寺内賢一五段、小室五段、佐々木四段、寺内道義六段、白石二段
後列左から、藤沼五段、粕谷三段、安田四段、兼子二段、酒井五段、山田六段
門井四段、田中四段

以上

ゴルフ部



部長 佐藤将彦 (昭 43 学子)

2019 年度活動報告と令和 2 年度活動計画は次の通りです (氏名は敬称略及び、卒年の「昭」省略)。埼玉支部 (多賀むさしの会) と千葉県支部との合同開催が定着しつつあります。一方で当支部 (多賀いちょう会) の参加者はジリ貧傾向です。

1 パーティ構成単位数の 4 名ギリギリが毎回の参加者数となりつつあります。

1. 2019 年度第 36 回春季 3 支部合同コンペ

- ・開催日：2019 年 3 月 29 日 (金)
- ・場所：坂東ゴルフクラブ (幹事は、埼玉支部)
- ・参加者：14 名 (内、埼玉支部 7 名、千葉県支部 2 名、東京支部 6 名内 1 名見学者、以下、東京支部参加者記載、順不同)。
小林一 (38 学機)、平山隆司 (40 工化)、青野潔 (41 学化)、西岡周二 (47 学機)、佐藤将彦がプレーの 5 名。張立業 (平 24 院) は見学。桜未だしの肌寒い中、行われました。
- ・優勝：佐藤、2 位：高橋氏 (埼玉)、3 位：高崎氏 (千葉県)。
- ・競技方法：埼玉支部持ちハンディ+新ペリア方式 (初参加者)
- ・その他：五支部親睦コンペの選手選考会を兼ねました (原則、グロス上位の 4 名選出)。



2. 2019 年度 四支部 (旧五支部対抗改め) 懇親コンペ (幹事 水戸勝田支部)

- ・開催日：令和元年 6 月 6 日 (木)
- ・場所：扶桑カントリー倶楽部
- ・参加者：16 名。当支部からは、小林一、青野潔、西岡周二、佐藤が参加。梅雨入り直後でありましたが、夏を思わ



せる暑さの中、各位、日頃の実力を遺憾なく発揮し、団体戦が準優勝、個人戦は、3 位に青野、4 位に西岡、9 位に小林一、11 位に藤の好成績でした (新ペリア方式)。

3. 2019 年度第 37 回秋季 3 支部合同コンペ

- ・開催日：令和元年 9 月 20 日 (金)
- ・場所：紫 CC (紫あやめ 36) あやめコース (幹事は、東京支部)
- ・参加者：14 名 (内、埼玉支部 7 名、千葉県支部 3 名、東京支部 4 名、以下、東京支部参加者記載、順不同)。小林一、平山隆司、青野潔、佐藤。秋の絶好の天気の中、プレーを楽しみました。
- ・優勝：高橋氏 (埼玉)、2 位：小林一、3 位：高崎氏 (千葉県)。
- ・競技方法：新ペリア方式
- ・その他：当支部参加者わずか 4 名。



4. 2019 年度第 38 回年末 3 支部合同コンペ

- ・開催日：令和元年 12 月 3 日 (金)
- ・場所：坂東 CC ((幹事は、千葉県支部)
- ・参加者：12 名 (内、埼玉支部 6 名、千葉県支部 2 名、東京支部 4 名、以下、東京支部参加者記載、順不同)。小林一 (38 学機)、青野潔 (41 学化)、西岡周二 (47 学機)、佐藤将彦。
- ・優勝：西岡、2 位：高崎氏 (千葉県)、3 位：森氏 (埼玉)。初冬の好天の中、春と同じ場所の開催。
- ・競技方法：新ペリア方式 (制限なし)
- ・その他：初の年 3 回目開催。年最初と最後を、東京勢が優勝。



5. 令和 2 年度については、前年度を踏襲予定

下記の新役員体制になりました、引き続き宜しくお願いします。入会、スポット参加期待!

連絡窓口 部長：佐藤将彦 090-8819-7305

副部長：西岡周二 0299-59-2983

写真部

部長 小林 渡 (昭38学電)

多賀いちょう写真部は会員11名、年2回の撮影会、「埼玉ワンダーフォト写真展」、「東京支部写真展」、「こうがく祭写真展」に出展しております。埼玉支部「ワンダーフォトクラブ」と連携して相互の写真展、撮影会に参加、技術の向上、親睦を深めております。令和元年の活動状況は以下の通りです。

1. 初夏の撮影会

5月26日(木)に「巣鴨地藏界隈と新緑の六義園を訪ねる」と題して実施しました。

赤パンツの商店街、新緑の美しい六義園、バラの見事な旧古河庭園訪れ、昔懐かしいチンドン屋に遭遇しました。参加者13名。



<参加者>



<チンドン屋>

2. 東京支部総会写真展

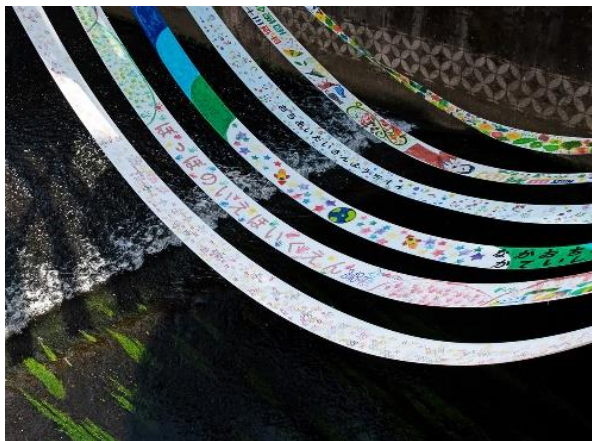
7月6日(土)13名、19点展示、サイズA3に統一。次ページを参照願います。

3. こうがく祭写真展

11月2日(土)工学部インフォメーションホールで写真23点展示、約100名の見学者が訪れました。東京から三好成實(39学機)、黒澤郁雄(45学精)が展示サポートしました。

4. 冬の撮影会

2月21日(金)「染の小道を訪ねる」と題し



<川のギャラリー>

て実施しました。新型コロナウイルスの影響で個人対応としました。参加者3名、優美な友禅染の舞う「川のギャラリー」、作家の小道、二葉苑の小道等素晴らしかったです。

5. 会員の訃報

鈴木日出男様(30学原)11月18日に逝去されました。東京支部発足に尽力され、写真部、



山遊会の創立者でもあります。写真歴が長く、海外(特にネパール)と深い繋がりがあり、埼玉県展写真部門連続15回入選の大ベテランでした。遺作「にわか雨」を支部展示作品に掲載しました。

6. 会員の主な活動状況

◇鈴木日出男

- ・第70回埼玉県展写真部門 入選
- ・第36回埼玉県写真サロン 入選

◇小林 渡

- ・第3回(2019)フォトコンテスト神奈川富士フィルム賞
- ・第64回(2019)全神奈川写真サロン 準特選

◇高橋伸二(41学機)

- ・第70回埼玉県展写真部門 入選

7. 入会の案内

連絡窓口

小林 渡 E-mail: koba-wt@nifty.com

黒澤郁雄 E-mail:

8my66j@bma.biglobe.ne.jp

以上

山遊会

副会長 青野 潔 (昭41学化)

2019年度は諸般の事情により、会の活動を休止せざるを得ませんでした。2020年度は新会長を中心に、面白い山歩き・名所巡り・等々を企画し案内しますので、みなさん是非参加してください。

連絡窓口

会 長 青野 潔 TEL 044-954-2573

副会長 小森廣樹 TEL 045-573-3625

2019 年度同窓の集い作品展 出展写真から抜粋(1)



「にわか雨」
鈴木 日出男 (昭 30 学原)



「レイクルイーズ・カナダ」
山崎 慎一郎 (昭 31 学原)



「123 基の鳥居・山口県長門市」
森永 隆宏 (昭 36 学機)



「ベネチアベッキオ橋・イタリア」
坏 弘 (昭 37 学機)

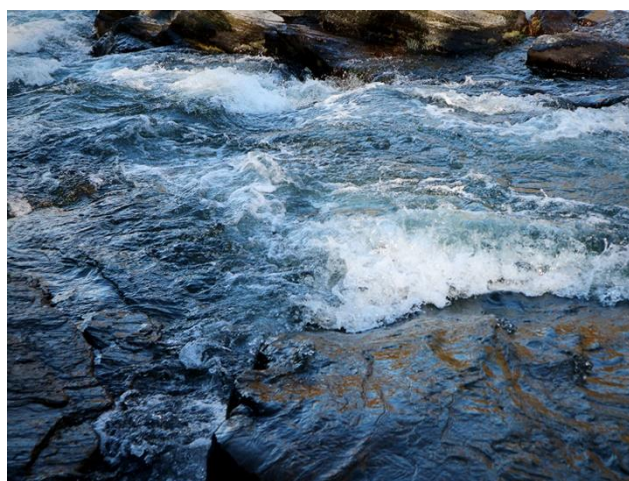
2019 年度同窓の集い作品展 出展写真から抜粋(2)



「ファミリー・バングラデシュ」
小林 渡 (昭 38 学電)



「夏雲・神奈川県逗子市」
三好 成實 (昭 39 学機)



「激流・埼玉県嵐山町」
田中 栄太郎 (昭 40 学化)



「雨の中でも・千葉県香取市」
高橋 伸二 (昭 41 学機)



「健康でいてね・東京都巣鴨」
黒澤 郁雄 (昭 45 学精)

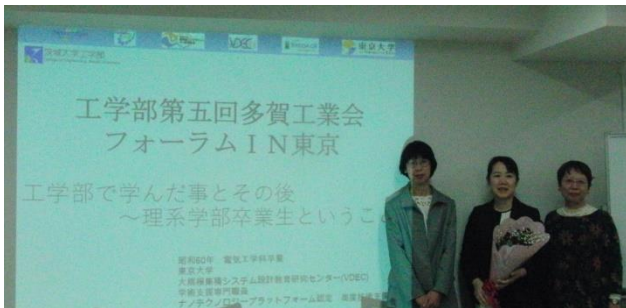
女子会

副会長 鈴木(旧姓 西村)葉子(昭 62 学化)

多賀工業会の皆様、いつも女子会に温かいご支援をいただき、ありがとうございます。今年度の活動をご報告させていただきます。

1. 第五回多賀工業会フォーラム・I N東京

3月16日(土)「工学部で学んだこととその後～理系学部卒業生という事」と題し女子会会長の太田さんが講演しました。入社後、休日に勉強して夢を実現していかれたお話にとっても感心しました。また、最先端の技術を様々な分野に応用する研究支援の仕事について興味深く聞かせていただきました。



<左から 鈴木、太田、寺田(敬称略)>

2. 同窓の集い

7月6日(土)に初参加の方2名を含む4名の女子会メンバーが参加しました。学年は違っても同じ工学部を卒業し、家庭と仕事を両立してきた卒業生と出会い、楽しい時を過ごしました。懇親会では学生時代から良い友人に恵まれ交流を続けてこられたことを幸せに感じるとお話がありました。

3. 茨城大学創立70周年記念講演会

10月26日(土)理学部岡田教授による「チバニアンと地質時代」の講演がありました。千葉県市原市の地層を国際境界模式層断面とポイント(GSSP)に申請し、イタリアの二つの候補地と2016年から競ってきたとのこと。この間に堆積物中のベリリウム同位体分析の新たな手法が開発され、各候補地がそのデータを発表していった話など貴重な舞台裏を伺うことができました。

この地層が地質時代の前期—中期更新世世界のGSSPとして承認され、地質時代の名称が「チバニアン」となるよう期待が高まりました。

今年の同窓の集いは7月18日(土)です。ご参加をお待ちしております。

多賀工業会東京支部女子会
taga.gyoshi@gmail.com

多賀工業会東京支部 同窓の集いに参加して

板垣整子(旧姓 長沼)(昭 61 院電)
大本哲子(昭 63 学電)

7月6日、多賀工業会・東京支部総会・懇親会に参加させていただきました。学科の先輩でもある、女子会会長の太田さんから熱心にお誘いいただき、卒業後30年余りを経て今年初めての参加となりました。

当日は、参加された皆様から懐かしいお話を伺いながら、工学部キャンパスや一人暮らしをしたアパートのこと、講義の合間や休日に遊びに行った河原子海岸のこと、今も好きな大みか饅頭のこと、どうしても食べられなかった名物の納豆のこと等々、学生時代を思い出してたいへん懐かしく感じながら過ごすことができました。

そしてまた、卒業生のみなさまがリタイア後も経験や趣味を活かしパワフルに活躍されている事から刺激を受け、今後のキャリア形成を考える

パワーを頂きました。

この日をきっかけとして、メールのやり取りをさせていただくようになったり、講演会などのイベントにご案内させていただいたり、新たなお付き合いを始めることができました。

女子会では、ランチ会も計画されており、また楽しい時間が持てそうで楽しみです。



<左から鈴木、太田、筆者の板垣・大本(敬称略)>

テニス部

部長 山本 蕃 (昭 42 学精)

1. 令和元年 5 月 22 日 (水) : 春季練習会・反省会 (参加者 : 11 名)



練習会を都立小金井公園テニスコートにて開催した。好天に恵まれ、気持ち良い汗をかき充実した練習ができた。練習会終了後、吉祥寺駅前に移動し反省会を実施した。練習会には間に合わなかったが 4 名が新たに加わり、その場で本年度活動方針(特に 7/6 の「同窓の集い」への参加協力)等説明・確認した。

2. 令和元年 7 月 6 日 (土) : 東京支部「同窓の集い」 (参加者 : 7 名)

昨年テニス部は「同窓の集い」の年度担当幹事として、受付・司会等の運営面と参加者増の面で貢献した。今年も「できるだけ大勢で参加し、会を盛り上げよう」との掛け声で、7 名が参加した。

3. 令和元年 9 月 27 日 (金) ~ 28 日 (土) : 茨城大・福島大テニス部 OB 交流会 (参加者 : 10 名)

栃木県大田原市にある那須スポーツパークに 13 名が集まり(茨城大 : 10 名、福島大 : 3 名)、テニス・囲碁・カラオケ等で親睦を深めた。福島大側の参加者減が心配される。

4. 令和元年 10 月 26 日 (土) : 茨城大学創立 70 周年記念講演への参加

一橋講堂で開催された記念講演会に、河上前部長が代表して出席した。

5. 令和元年 11 月 16 日 (土) : 茨城大学テニス部 現役/卒業生の交流会

場所 : 茨城大学本部 (水戸)
参加者 : 矢嶋・村上・大森・田辺の 4 名

初めに現役の自己紹介があり、続いて卒業生が自己紹介した。その後、チームを A と B に分けチーム対抗戦の試合を行った。



< 現役の紹介 >



< 卒業生の紹介 >



< 現役・卒業生一緒に記念撮影 >

6. 令和元年 11 月 26 日 (火) : 秋季練習会・反省会

場所 : 小金井公園テニスコート (13 時 ~ 16 時)
参加者 : 14 名 (1 名は練習会のみ、反省会からの参加者が 5 名)

当日、朝の内は小雨模様で練習会が開催できるか心配されたが、昼過ぎには雨が上がり何とか練習会を開催する事が出来た。吉祥寺駅前に場所を移した反省会からの参加者を加えると総勢 14 名となり、今後の活動について意見交換した。なお、部長・副部長・会計が新たに選任された。



< 小金井公園での練習会 >

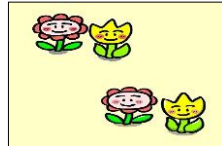


< 吉祥寺駅前での反省会 >

連絡窓口

部長 : 山本 蕃 qq7b2e3d@eco.ocn.ne.jp
副部長 : 村上宗久 m-murakami@hi-ho.ne.jp

HP 編集室より



HP 編集室長 黒澤 郁雄(昭 45 学精)

HP 編集室長を仰せつかってから早 5 年。「光陰矢の如し」です。5 年前は何をどうしていいのかわからず矢野睦男先輩 (32 学原) の暖かく厳しいご指導の下、少しずつ自力で HP 記事を作成しました。5 年を経ても HP の記事を送っていただいた会員の作者の意向を理解できず修正の日々です(笑)。マンネリという言葉が頭の中を駆け巡ります。

マンネリについてネットで調べてみると、「マンネリ」とは「マンネリズム (mannerism)」の略で「新鮮味や独創性がないこと」という意味の言葉です。もともと「マンネリズム (mannerism)」は芸術の分野で使われていた言葉ですが、今日では一般に広い意味で使われます。「退屈する」や「飽きる」というような意味で使われることも多いです。例えば、付き合いはじめは楽しかったカップルが、時がたつにつれて新鮮味が失われ、退屈したり飽きたりして行くことを「マンネリ」と言います。

正に今の HP の記事作成はマンネリズムそのものです。これからの HP 記事作成は作者の意向を踏ま

えながら矢野先輩からのお教え、5 年の経験から得たスキルを発揮し、楽しい記事を読者お届けできることを心に刻み HP の運営をしていきたいと考えております。それには会員の作者さんをお願いする事も多くなるかもしれませんが、宜しく願いたします。とはいっても会員の作者からの記事を元に HP を作成するのですから作者の意向は守りますのでご安心ください。

毎回記述しておりますが、会員の方々から記事をたくさん送ってください。HP がマンネリズムを打破するのは会員のお力なのです。高年齢の集まりも枯山水の一種独特の雰囲気がありますが、若い世代の生き生きとした風を吹き込んでいただき当支部の活性化を支えていきたいのです。よろしく願いたします。

今後も会員の皆様からの支援をいただければ幸いです。

URL : <http://tokyo.tagakgk.com/>

編集後記



会報編集室長 金子 芳久(昭 48 学機)

東京支部の会報編集室長を仰せつかって、早 7 年になります。就任直後は皆さんに読んでもらえる会報を作らなければ意味がないと考え、「活字を出来るだけ少なくし、写真やイラストを活用する。そして、それらの効果を最大限に引き出すためにカラー化を図る。」という結論に達しました。早速、幹事会で提案し、費用面から反対する意見もありましたが、最終的に賛成して戴きました。2~3 年前には支部財政の収支悪化が懸念されるようになり、会報配布先を見直すとともに、会報そのもののコスト削減にも取り組みました。「当方から印刷会社にデータが渡った後、どのような工程を経て皆さんの手に届くのか？また、見積りの根拠はどのようなものか？」等々を

調べて相見積もりを取り、そして交渉して現在の条件に落ち着きました。結論を言えば、全てを相手方に任せっぱなしでは、高くつくということです。条件を明確にし、期限を守り、相手が作業を順調に進められるようにすることが肝要です。そうすれば信頼感も生まれ、お互い協力しあう関係も築かれます。ところで、7 年も経つと会報の内容・レイアウト・編集の仕方等、同じパターンの繰り返して面白みがなくなってきました。そこで、編集室長の金子と副編集室長の小澤が交代し、新しい体制で魅力ある会報作りを目指すことになりました。今後とも、どうぞよろしく願致します。

編集室員

兼子 八郎 (昭 38 学電)	小林 渡 (昭 38 学電)
藤枝 伸一 (昭 45 学子)	金子 芳久 (昭 48 学機)
小澤 喜宏 (昭 53 学子)	加藤 邦治 (昭 53 学子)
鈴木 葉子 (昭 62 学化)	二川 克美 (昭 63 院情)

多賀工業会東京支部会報 【第 23 号】

発行 2020 年 5 月 26 日
発行者 支部長 小林 一
〒226-0002 横浜市緑区東本郷 3-39-2
TEL 045-473-0928 / FAX 同左

令和元年度年会費納入者

(敬称略、順不同)

* 会費ご納入有難うございました。納入された方で記載漏れや間違いがありましたらご寛恕の上、ご連絡をお願い致します。
また、未納の方はご入金をお願い致します。
(本名簿作成者: 名簿編集室 飯塚)
Tel: 045-755-1588 E-Mail: elias_ii.ggr@f5.dion.ne.jp

令和2年1月以降の納入は掲載しておりません。

氏名の後の○は本年度以降分納入又は既納の方で、中の数字は前納年数を示します。

昭17専金 坪能 進	昭37学機 澤野 孝慈 ②	昭38学精 矢嶋 國男	昭44学子 常盤 浩央	昭50学精 岸添 義彦 ①
昭18専金 市島 健男 ②	昭37学機 服部 則男	昭39学機 佐川 六郎	昭44学子 野澤 敏矩	昭51学子 庄司 益宏 ①
昭22専金 明石 和夫	昭37学電 上田 正雄	昭39学電 塚本 文彦 ①	昭44学子 吉田 真吾	昭51学精 秋山 雅俊 ④
昭22専金 土屋 敏夫 ③	昭37学電 西川 正登	昭39学電 原 俊彦	昭44学金 酒井 茂	昭52院金 武藤 和望
昭22専通 中村 弘	昭38学機 河上 弘一	昭39学金 入江 暢泰	昭44学化 齊藤 昭	昭52院金 渡辺 隆
昭22専通 前田 豊昭	昭38学機 小林 一	昭40学電 飯野 嘉郎	昭44学精 岩波 茂	昭53学子 小澤 喜宏
昭23専機 梅田 政夫	昭38学機 駒場 方耀	昭40学電 山崎 輝行	昭44学精 菊地 政行	昭53学子 加藤 邦治
昭23専電 塩野 謙	昭38学機 桜井 衛	昭40学金 松本 二郎	昭45学電 小滝 麟太郎	昭53学情 高木 利之 ③
昭24専通 海老原 和	昭38学機 丹下 宏	昭40学化 田中 栄太郎	昭45学電 永木 利夫 ③	昭53学情 高野 たい子
昭26専通 菊地 玲二 ⑤	昭38学機 徳江 景英	昭40学化 平山 隆司	昭45学電 吉田 通廣	昭54院子 川村 澄
昭28学電 橋本 久美	昭38学機 豊田 元雄	昭40学精 大泉 雅靖	昭45学子 藤枝 伸一 ①	昭54学子 佐伯 豊
昭28学金 赤城 清	昭38学機 中村 好秀	昭40学精 寺 紘一	昭45学精 黒澤 郁雄	昭54学金 豊田 邦宏 ①
昭29学原 石橋 弘 ①	昭38学機 半田 守正	昭41学機 高橋 伸二	昭46院機 小泉 裕 ①	昭55院電 丸島 國義
昭30学原 鈴木 日出男	昭38学電 今橋 富美男	昭41学機 富田 瑞徳	昭46学電 飯塚 英一	昭56学機 峰村 勝幸 ②
昭30学機 田口 忠夫	昭38学電 内田 茂	昭41学化 青野 潔	昭46学電 加藤 昌男 ③	昭56院精 田中 克弘
昭30学機 檜山 邦良	昭38学電 大久 忠雄	昭41学化 岡本 實 ④	昭46学電 狩野 守	昭57学機 松本 勝己
昭30学機 松澤 勝海	昭38学電 兼子 八郎 ④	昭41学化 小沼 淳志	昭46学電 助川 正義	昭57学金 若松 洋治
昭30学電 木村 好延 ③	昭38学電 後藤 紀夫	昭41学化 齊藤 保夫	昭46学子 大崎 孝明	昭58学機 有路 博
昭31学原 山崎 慎一郎	昭38学電 小林 渡	昭41学化 橋川 隆夫	昭46学子 栗原 功幸	昭58院子 土生 理 ④
昭31学電 大内 孝	昭38学電 坂野 栄	昭41学化 矢島 勝司 ⑧	昭46学子 安田 健博 ④	昭60学電 太田 悦子 ③
昭31学電 藤川 俊明	昭38学電 佐々木 登喜夫 ③	昭42学機 小森 廣樹	昭46学金 大井川 勝雄	昭60学電 田島 清至 ④
昭32学原 矢野 睦男	昭38学電 寺内 賢一 ③	昭42学電 粕谷 利夫 ②	昭47学機 高田 洋 ①	昭61院電 板垣 整子
昭32学電 山下 正明	昭38学電 根本 陽 ①	昭42学電 森田 徹郎	昭47学機 西岡 周二 ②	昭62学機 神作 武志
昭33学機 奥 康治	昭38学電 橋本 政巳 ⑫	昭42学電 山田 恵規 ④	昭47学子 五十嵐 喜良 ⑨	昭62学化 鈴木 葉子
昭35学機 高野 久弘	昭38学電 綿引 貞男	昭42学精 山本 蕃	昭48学精 小泉 幸範	昭63学電 大本 哲子
昭36学機 柏木 尚	昭38学金 海老原 雄二	昭42教音 鶴田 昭則	昭48学機 金子 芳久 ①	昭63院情 二川 克美
昭36学機 上月 秀俊 ②	昭38学化 大塚 進 ①	昭43学機 遠藤 義和	昭48学機 宮城 緑郎	平02院金 柴野 直樹
昭36学機 真下 知行 ③	昭38学化 小田倉 勝夫	昭43学機 藤沼 隆夫	昭48学機 村上 宗久 ③	平08学電・子 生井澤 伸秋 ⑤
昭36学機 森永 隆宏	昭38学化 柴崎 康	昭43学子 佐藤 将彦	昭48学電 佐藤 知康	平08院生 東 學 ①
昭36学機 横山 馨	昭38学化 白石 道彦	昭43学子 鈴木 弘道 ②	昭48学化 駒坂 俊樹	平09学都 小林 靖典
昭36学電 飯村 卓郎 ⑤	昭38学化 高木 二郎	昭43学子 角田 勇	昭48学精 福島 良信 ③	平09学都 藤井 貴弘 ①
昭36学電 小宅 仁	昭38学化 矢部 功一 ④	昭43学子 野崎 淳一 ⑬	昭49学電 坂本 淳 ①	平10学機 山本 夏江 ①
昭36学金 高信 和明	昭38学精 磯部 亮	昭43学子 袴塚 邦彦 ⑥	昭49学精 田川 孝二 ①	平10学機 吉田 順子
昭37学機 坪 弘	昭38学精 市村 敬司	昭43学化 池上 毅	昭50学子 松田 実 ⑩	平24院情 張 立業 ②
昭37学機 菊池 耕基	昭38学精 黒羽 昇	昭43学精 齊藤 央道	昭50院精 加藤 清	

合計 174名
(前納者を含みます)

令和元年度ご寄付者

(敬称略、順不同、単位は円)

ご寄付有難うございました。

昭17専金 坪能 進	3,000	昭40学精 大泉 雅靖	2,000
昭17学原 石橋 弘	20,000	『同窓の集い』御厚志	3,050
昭36学機 上月 秀俊	2,000	匿名希望	20,000
昭38学精 黒羽 昇	500		

年会費納入のお願い：

皆様に納入して頂く年会費とご寄付が当支部の主な財源となっております。

- ◇ 『同窓の集い』に参加頂ける方は、当日受付にて直接納入いただけます。
- ◇ 『同窓の集い』に参加頂けない方は、ご面倒でも同封の郵便局払込用紙にて、窓口またはATMから納入ください(振込み料金は支部経費にて負担)。(ご寄付の場合もこの用紙をお使い下さい)



casita
[カシータ]

新しい資産形成の考え方

インカム住宅を建てることで
自分たちの住む家にかかる支出を0(ゼロ)にする。

戸建賃貸住宅 casita

詳しくはwebで。

資料請求、お問い合わせは
こちらまでお気軽に！



0120-355-347

建設業許可番号 / 茨城県知事登録 (特-22) 第19313号

日立市多賀町 2-4-6

株式会社 ジュンホーム

茨城大学工学部
昭41学化
後援会長



(株) ジュン・ホーム
代表取締役
小沼 淳志



ワイヤハーネス設計・製作

顧客の信頼を得て50年

有限会社 いすず電機工業所

営業品目：少量多品種対応可

- ◇ワイヤハーネス設計・製作
- ◇各種ケーブル加工
- ◇組立配線

本社 日立市東金沢町4丁目-12-7

TEL 0294-36-6835

FAX 0294-35-2505

ホームページ <http://www.isuzudenki.com/>

代表取締役 小宅 仁 (36学電卒)

私たち大協印刷は、

印刷に関わるあらゆるサービスをご提案しております。

ぜひ一度ご相談ください。



大協印刷株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東2-4-14
TEL: 03-3837-5291 / FAX: 03-3837-5293 E-mail: info@daikyo-print.co.jp

<http://www.daikyo-print.co.jp>

